

# 平成30年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区 名 東淀川区  
学 校 名 井高野小学校  
学校長名 二井 敦子

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただきため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## 1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、児童の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査内容

### (1) 教科に関する調査（国語、算数、理科）

- ・主として「知識」に関する問題（A問題）
  - ・主として「活用」に関する問題（B問題）
- ※ 理科については、主として「知識」に関する問題と、主として「活用」に関する問題を一体的に出題

### (2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

## 3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・井高野小学校では、第6学年53名

## 平成30年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語Aは、全国平均より5.7ポイント、大阪市平均より1.0ポイント低い。国語Bは、全国平均より6.7ポイント、大阪市平均より3.0ポイント低い。算数Aは、全国平均より0.5ポイント低く、大阪市平均より1.0ポイント高い。算数Bは、全国平均より3.5ポイント、大阪市平均より1.0ポイント低い。今年度は、国語A Bとともに、全国平均との差が昨年度に比べ縮まった。特に国語Bは、昨年度全国平均に比べ6.6ポイント低かったが、今年度は3.0ポイントと全国との差が大きく縮まった。算数Aは、昨年度に比べ全国平均との差が縮まり、大阪市平均より1.0ポイント上回る結果となった。しかし算数Bは、全国平均正答率との差が昨年度に比べ少し下回った。理科は、全国平均より6.3ポイント、大阪市より1.0ポイント低い。前回の実施（平成27年度）は、全国平均との差が11.4ポイントであったことから比べると、大きく差が縮まった。平均無解答率に関しては、国語Aが2.1%で全国平均より1.4%低いが、国語Bは5.1%、算数Aは5.0%、算数Bが8.8%、理科が1.4%で、この4つに関しては全国平均より0.2~2.5%高いところで収まっている。

## 分析から見えてきた成果・課題

### 教科に関する調査より

〔国語〕AB総合して教科の領域観点からみると、どの観点も全国平均に比べ低いが、「話すこと・聞くこと」は、前年度11%以上の差があったことに比べ、5%程度に縮まっている。「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は全国平均に比べ4~8%に収まっている。「読み取る力」を高める指導の工夫に力を入れてきた結果、確かな読解力をもとにして内容を開き取ったり、話したりする力も身についてきたと考える。しかし、「書くこと」は全国に比べ15%低い結果となった。書く能力を高める言語活動を工夫し、国語で適切に表現する資質・能力の育成に努める。

〔算数〕「数量関係」や「数と計算」領域については、全国平均と比べて1~2ポイント高い結果も見られた。ほかの領域については全国から比べ3~5%低い結果に収まっている。ただ、問題形式で見ると、選択式は全国と比べても高い結果が出ているが、Bでの記述式となると6%下回る。身につけた知識・理解を通して考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔に表わす力の育成が今後の課題である。

〔理科〕学習指導要領の区分からみて、どの区分も全国平均に比べ低いが、特に「生命」においては10%以上とその差は大きい。身の回りの生物について、観察や実験などを通して、自然の事物に対する理解や、自然を愛する心情を養うことが課題である。

またどの教科においても記述式の問題に課題が見られる。学習活動全体を通して、思ったことや考えたことを書いて表現する力の育成が求められる。

### 質問紙調査より

「自分にはよいところがある」と回答する児童は、73.2%と昨年度と大きく変わっていない。「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」は、全国や大阪市では、「そう思わない」と回答する児童は4%程度と少なからず存在するが、本校は、「いじめはいけないことだ」とする回答が100%であった。自尊感情を高めていく一つとして、今後もいじめを許さない指導を継続するとともに、他者を思いやる心を通して、自身の大切さについて考える取り組みも効果的と思われる。

課題としては、家庭学習の定着を図る必要がある。「家で、学校の授業の予習・復習をしていますか」の質問では、「している」と回答した児童は37.7%であり、全国に比べ25%近く下回る。家庭への啓発だけではなく、学校からの課題（宿題）の見直しや、読書活動の充実、児童に対する声かけ等、家庭と協力して定着が図られるよう学校全体で工夫していきたい。

## 今後の取組(アクションプラン)

- 国語においては、今後も言語活動の充実を図ることで、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力の育成を目指す。
- 読み聞かせや図書館開放の工夫など、地域とも協力し、図書活動の充実を図り、子どもの読書の推進と言語力の育成を目指す。
- 算数においては、今後も継続してティームティーチング（T.T）や習熟度別少人数学習など、個に応じた指導の系統立てた工夫をし、基礎・基本の定着を図る。さらに、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり、目的に応じて柔軟に表したりする力の育成に力を入れる。
- 放課後の「ステップアップ学習」に加え、夏休み中に「自主学習会」を実施。さらに、学校力アップ事業として「のびのびタイム」（放課後特別授業）を取り入れ、学習への意欲を高め、学びに向かう力の育成を図る。
- 教育課程を、ICTの活用、体験活動、外部講師による授業などを充実させることで、児童の深い学びになることを目指す。
- 宿題の見直しや、自主学習の工夫、家庭への啓発など、学校全体で家庭学習の定着を図る。

## 【 全体の概要 】

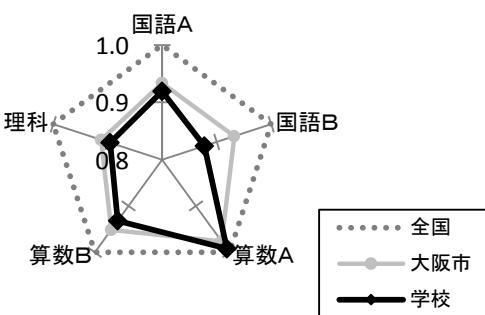
### 平均正答率 (%)

	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
学校	65	48	63	48	54
大阪市	66	51	62	49	55
全国	70.7	54.7	63.5	51.5	60.3

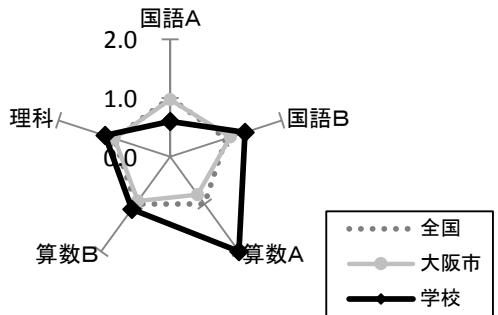
### 平均無解答率 (%)

	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
学校	2.1	5.1	5.0	8.8	1.4
大阪市	3.4	4.1	2.0	7.4	1.2
全国	3.5	3.8	2.5	7.9	1.2

平均正答率(対全国比)



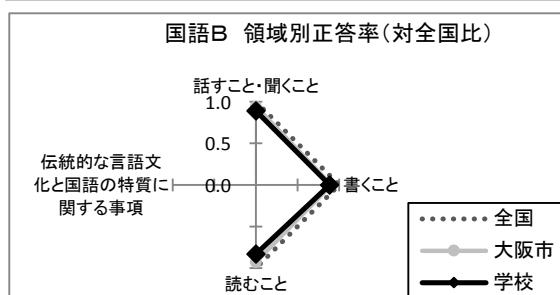
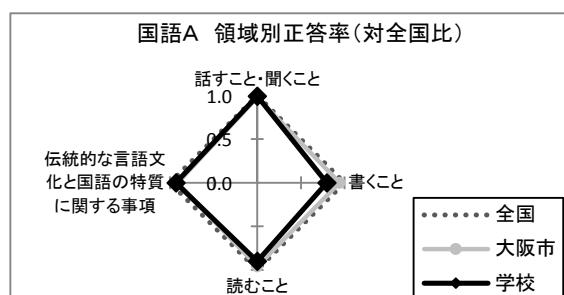
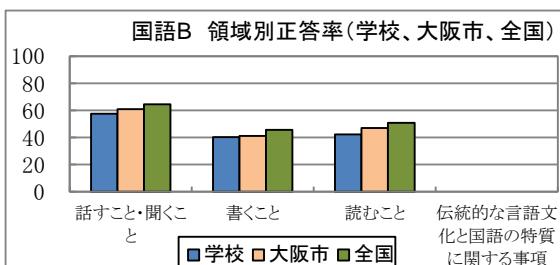
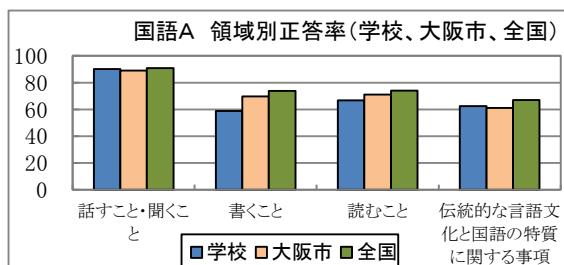
平均無解答率(対全国比)



## 【 国 語 】

A 問 題	対象設問数(問)	平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	1	90.2	88.9	90.8
	書くこと	1	58.8	69.6	73.8
	読むこと	2	66.7	71.0	74.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	8	62.5	61.1	67.0

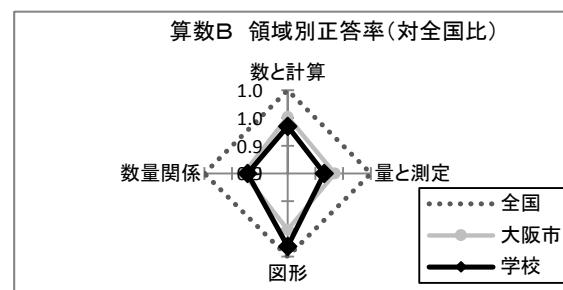
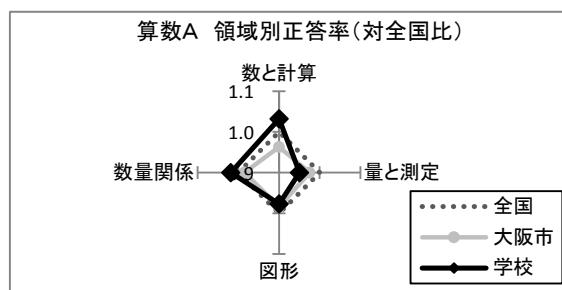
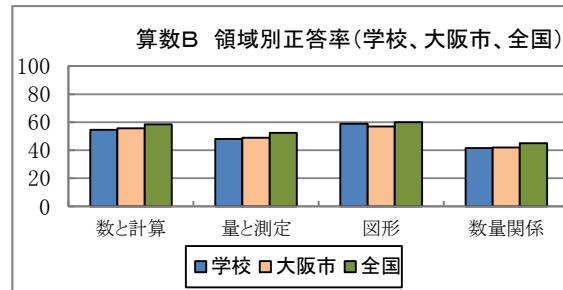
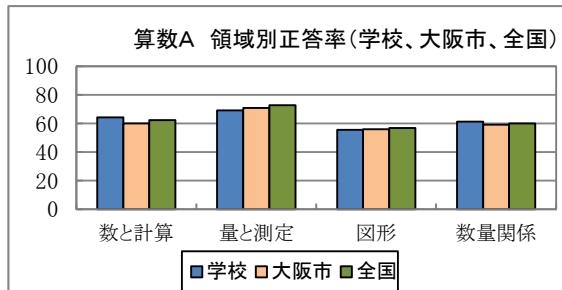
B 問 題	対象設問数(問)	平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	57.5	60.9	64.6
	書くこと	5	40.4	41.3	45.6
	読むこと	2	42.2	47.1	50.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	0	—	—	—



## 【 算 数 】

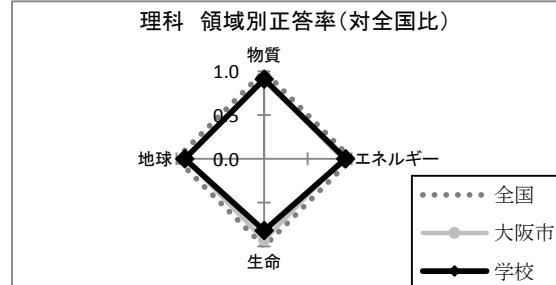
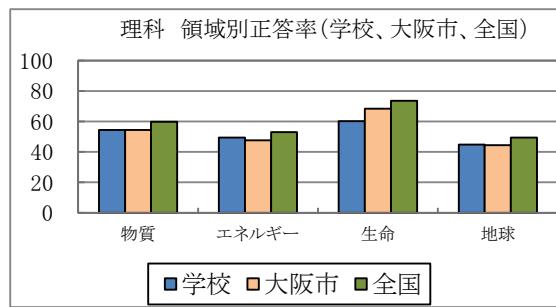
A 問 題		対象設問数(問)	平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の領域等	数と計算	5	64.3	60.0	62.3
	量と測定	4	69.1	70.9	72.7
	図形	3	55.6	56.0	56.9
	数量関係	5	61.2	59.2	60.1

B 問 題		対象設問数(問)	平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の領域等	数と計算	6	54.6	55.6	58.4
	量と測定	4	48.0	49.0	52.4
	図形	2	58.8	57.0	59.9
	数量関係	5	41.6	41.9	45.1



## 【 理 科 】

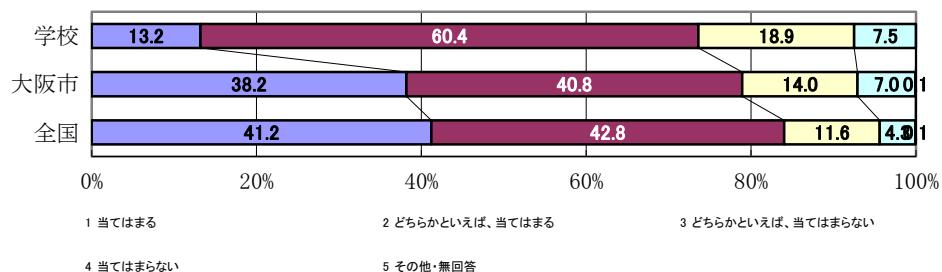
学習指導要領の領域等		対象設問数(問)	平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
A区分	物質	4	54.4	54.4	59.8
	エネルギー	4	49.5	47.7	53.1
B区分	生命	4	60.3	68.4	73.6
	地球	6	44.8	44.4	49.5



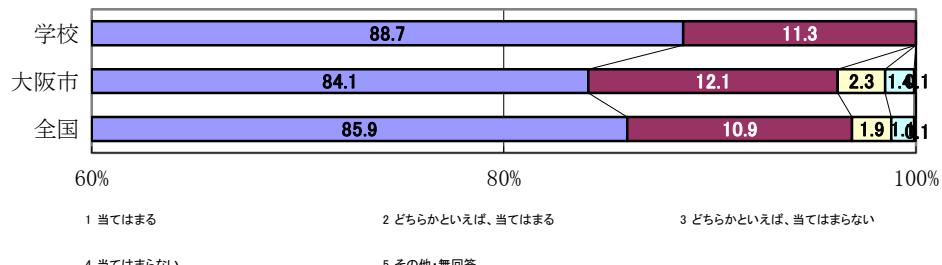
## 児童質問紙より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

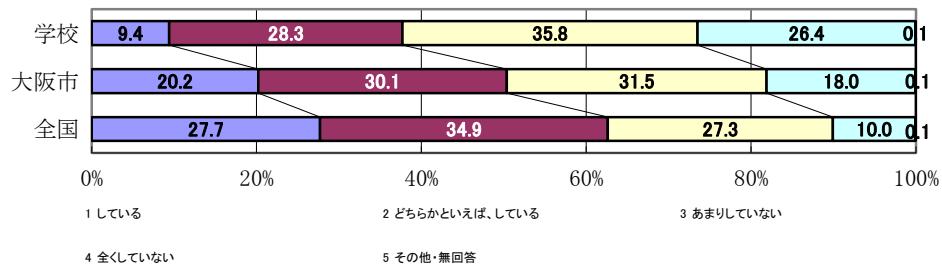
質問番号
質問事項
1
自分には、よいところがあると思いますか



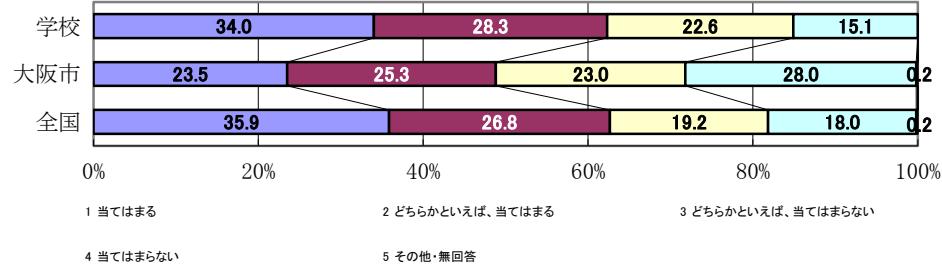
5
いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思いますか



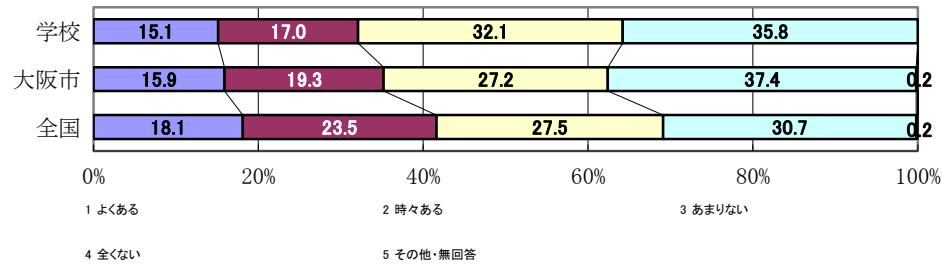
12
家で、学校の授業の予習・復習をしていますか



20
今住んでいる地域の行事に参加していますか



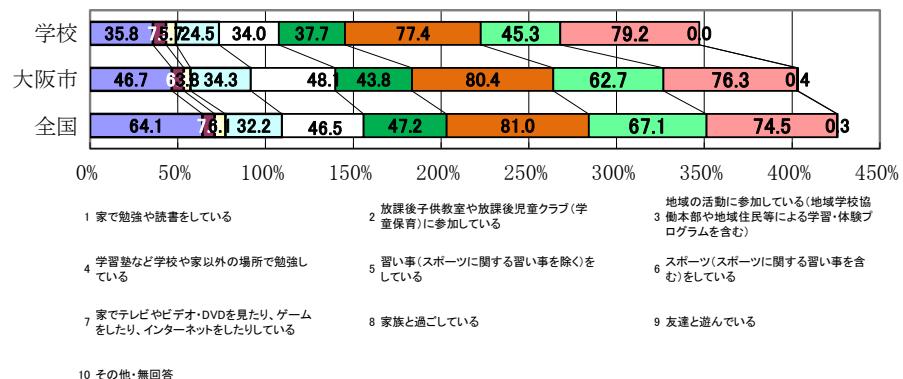
24
地域の大人(学校や塾・習い事の先生を除く)に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがありますか



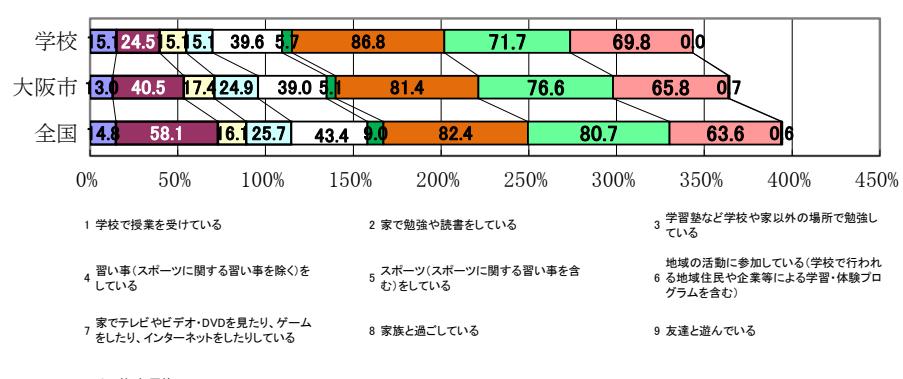
## 児童質問紙より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

質問番号
質問事項
16
放課後に何をして過ごすことが多いですか



17
週末に何をして過ごすことが多いですか



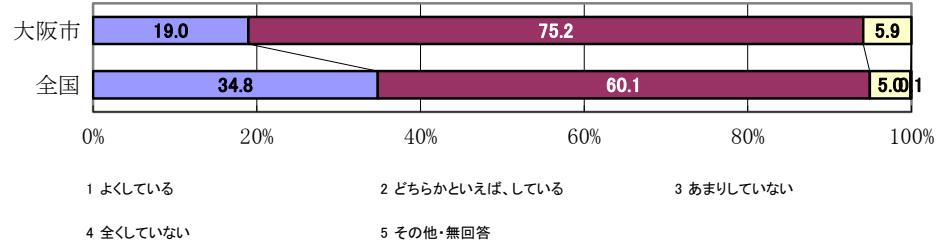
## 学校質問紙より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項
18

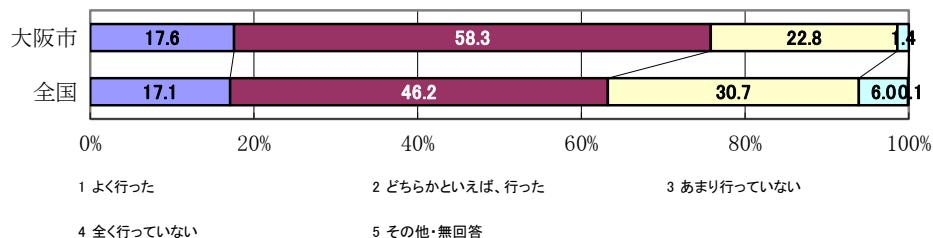
児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか

### 学校 「どちらかといえば、している」を選択



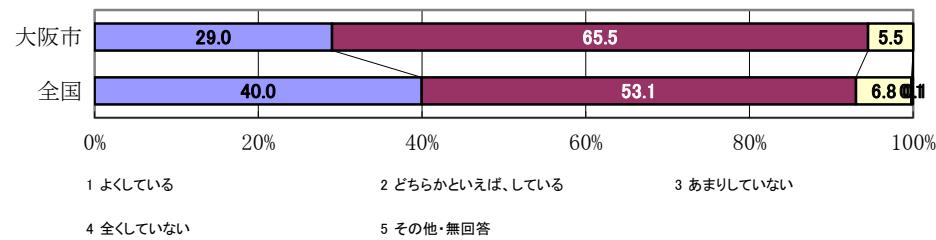
34
平成29年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の中学校と成果や課題を共有しましたか

### 学校 「よく行った」を選択



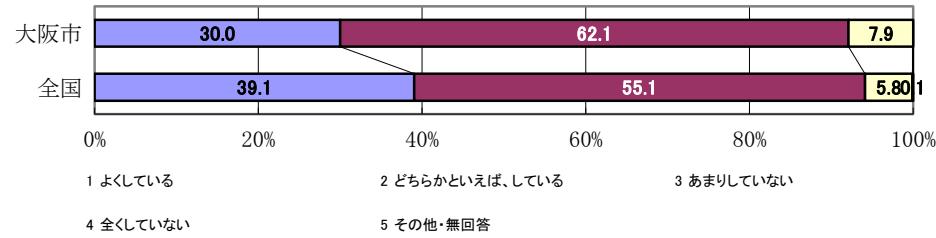
80
学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり、検討したりしていますか

### 学校 「どちらかといえば、している」を選択



81
言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいますか

### 学校 「どちらかといえば、している」を選択



82
学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいますか

### 学校 「どちらかといえば、している」を選択

